

2017年12月22日（金）神戸大学附属中等教育学校

1. 震災・復興とリスクマネジメント（○）
2. 国際都市神戸と世界の文化（）
3. 提言：国際紛争・対立から平和・協調へ（）
4. グローバルサイエンスと拠点都市神戸（）
5. その他（ ）

[概要]

神戸市立渦が森小学校で減災教育を実施しました。

1. テーマ

震災（Disaster）・復興(Reconstruction)・減災（Reduction）・レジリエンス（Resilience）（DR3プロジェクト）

2. 目的

神戸大学附属中等教育学校 SGH 「震災・復興とリスクマネジメント」

震災（Disaster）・復興(Reconstruction)・減災（Reduction）・レジリエンス（Resilience）（DR3）をテーマとした体験型プログラムの一環として、被災地で学んだ減災教育を地元神戸で実施することを通して、学びの成果を社会に還元する。

3. 活動の様子



3年生への減災教育を行いました



災害発生時のファーストアクションを考えます



ゲーム終了後には「正常生バイアス」について説明しました

4. 参加生徒の所感

5年生 Tさん

今回、減災教育を行ったのは小学3年生で新しい試みでした。小学5年生や中学生にするのとは違い、“被災者”や“遺族”などの言葉の意味がわからないという問題が出てきて、もっと工夫しなければならないと課題が見つかりました。被災地に行って、現地の人のお話を聞いて、自分が地元の人に完璧に伝えることは難しいけれど、一番伝えたい「地震時、大人の言うことを聞いて動くだけでなく、自分で考えるアクションをしてほしい」ということを伝えられたので良かったです。また、今回、私は KP で減災教育を実施することになりましたが小学生に向かって授業をしている時は研究という認識よりも、伝わってほしいという思いの方が大きくなったように感じます。少しずつでも、この地域でこの学校の生徒が小学生から大人まで幅広い世代に減災教育をして、還元するこの活動がこれからも受け継がれていくと良いなと感じました。

5年生 Sさん

私は、渦が森小学校の3年生を対象に、減災を伝えるため減災アクションカードゲームと東日本大震災で大きな被害を受けた、大川小学校に関する動画を用いた授業を行いました。今まで、DR3のメンバーとして、宮城や東京など様々な場所でたくさんの人と互いの言葉を通して関わる中で、学んだことや感じた思いを発信したいと考えたため、今回の授業を実施しました。また、より優れた減災教育を提示するためにKP活動を活かして調査を進めています。この、渦が森小学校での授業を行うことで、これらの減災教育を発信したいという思いに光をさすことが出来ていると感じています。今後、このような活動を後輩へと受け渡していくことで、減災教育を発信したいと抱く人を拡大して行きたいと思えます。これからも、地震や防災、減災などについてたくさん学び、たくさん発信できる様にありたいと思えます。